

2011年 春号

### 第73号

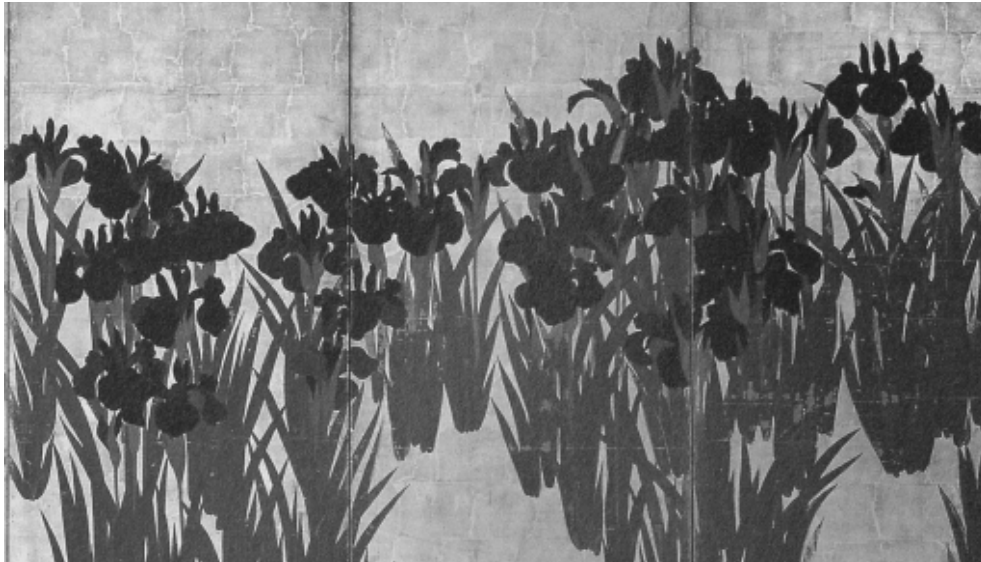
僧伽編集委員会

〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

# 僧伽

謹んで浄土真宗を案ずるに、  
二種の回向あり。  
一つには往相、  
二つには還相なり。

『教行信証』  
親鸞聖人の書かれた  
代表的な著作



尾形光琳「燕子花図屏風」

## 東下り

常徳寺 西山 彰

から衣 きつつなれにし  
つましあれば はるばるきぬる  
旅をしぞ思ふ

〔唐衣を着続けていると柔ら  
かくなって身になじむようにな  
った。それと同じに、いつも  
身近にいて親しく思う妻が都に  
住んでいるので、その都をあと  
にはるばるやって来た旅路をし  
みじみと思う。〕

昔、都を離れ東国に向かうこ  
とにした男が、三河の国の八橋  
というところに立ち寄った。男  
はそこで目にした「かきつばた」  
の五文字を句の頭に読み込んで  
都への未練を詠んだ。こういう  
話が伊勢物語にある。

この男は、在原業平がモデル  
といわれているが、「自分の身を  
つまらないものと思つて」東下  
りを決意したことになっている。  
現代人にはどうして理解しがた  
い心情である。

当時の人々にとつて、関東の  
地に赴くということは、世捨て  
人となるくらい覚悟のいること

であつたのであろう。だからこ  
そ、旅の途中で目にしたかきつ  
ばたの花は、すでに背を向けた  
はずの浮世の名残として、業平  
の目にいつそう鮮烈に映つたに  
違いない。

尾形光琳は、代表作「燕子花図  
屏風」の主題を、この伊勢物語の  
八橋の段から得ている。よほど気  
に入つたのか、同じ主題でいくつ  
もの作品を残している。それらは  
どれもかきつばたの花と八橋を  
組み合わせた構図になっている。  
しかし、ここにご紹介する光琳の  
代表作では、橋はどこにも描かれ  
ていない。それは伊勢物語の主題  
をより純粹に絵画化したためだ  
あると言われている。

光琳自身も四十六歳から四年  
ほど京から江戸に東下りをした  
ことがあるが、絵師として江戸で  
成功することはなかった。親鸞聖  
人が関東に足を踏み入れられて  
から、約五百年後のことであつた。

# 「御絵伝」でたどる 親鸞聖人のご生涯 (17)

第十七回目は「板敷摂化」と「弁円濟度」といわれる段です。

親鸞聖人が稲田に草庵を結んで布教をはじめると、その教えは近隣に広がり、門弟たちも増えていきましました。すると、その事を面白く思わない者も出てきたのです。この北関東は筑波山を中心として修験道が勢力を持つていた地域でもあったのです。その中心になっていたのが、弁円という山伏です。

この弁円については平清盛の孫であるとか、関白藤原忠通の曾孫であるとか言い伝えられています。当時は末派三五坊と門弟百余名を抱える法徳院を住持していたようです。信徒たちが

親鸞聖人のもとに帰参していくことに危機感を覚えた弁円は、護摩壇を設け、親鸞聖人に呪詛をかけますが全く効果がありません。

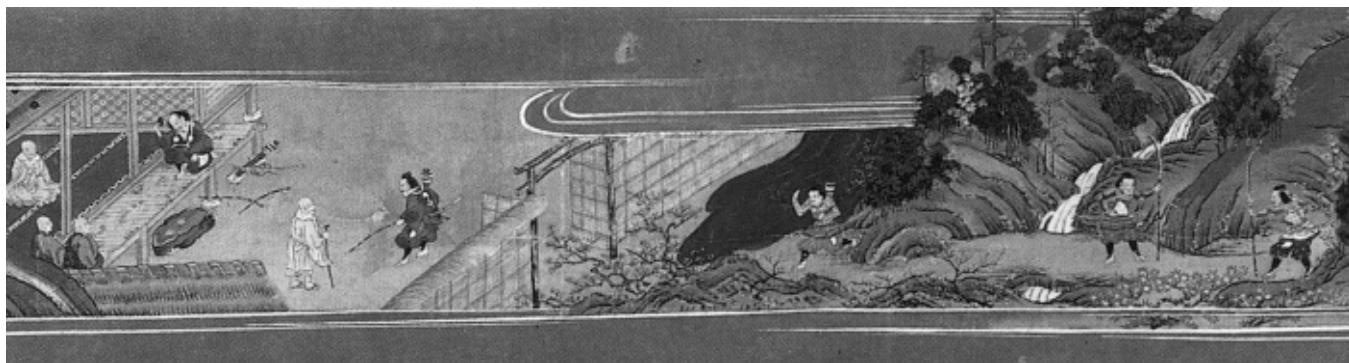
そこで、直接危害を加えようと、親鸞聖人がしばしば通る稲田と鹿島神宮の間にある板敷山で待ち伏せをします。これが右の絵です。長刀を持って待ち伏せているのが、天引辺の小川房と小山寺の吉祥房という二人の山伏。左の方で手をかざしているのが弁円です。ところが、何度待ち伏せても親鸞聖人の姿すら捕えることができません。

が左の絵です。絵の右の方で弓と刀を持って立っているのが弁円です。その横で杖をついて立っているのが親鸞聖人になります。あれほど探しても会えなかった親鸞聖人が、いきなり門の所にいることに驚いた弁円は、思わず親鸞聖人の顔を見つめてしまいます。すると、たちまちに怒りが消え、聖人を殺そうとしたことへの懺悔の念から涙が止まらなくなりました。

それを見た親鸞聖人は庵の中に入るように弁円に勧めます。左の縁に座っているのが弁円です。弓を折り刀を捨てて親鸞聖人の弟子となることを誓っている姿です。その左で部屋の中に座っているのが親鸞聖人です。親鸞聖人は弁円に明法房証信という法名をつけれ、二十四人の有力な弟子の十九番目に連なることになりました。

く、修験道以外にも、禅宗や真言宗、浄土宗など様々な宗教家が、親鸞聖人より先に活動していました。ですから、このようないざこざは決して少なくなかったのでしょうか。ただ宗旨をかえることも今ほど抵抗がなかったようで、様々な宗教の人々が親鸞聖人のもとに集まってきていた様です。

(浄)



# 真宗人物伝

第二十二回

徳法寺 杉谷 浄

## 順信

今回は親鸞聖人の三番弟子である順信(正式には順信房信海)です。順信を開祖とする無量寿寺の寺伝には、俗姓は藤原尾張権守片岡信親のぶちかとい、鹿島神宮の大宮司であったのですが、鹿島明神の御告げにより親鸞聖人の弟子となつたとあります。大宮司であつたかとはかく、僧伽六九号で紹介した性信と同じく鹿島神宮の宮司を務める大中臣おおなかとみ氏の出であることは確かかなようです。

鹿島出身の中臣鎌足から藤原氏が始まるのですから、藤原一族の流れである日野一族の親鸞聖人から見ると、大中臣氏は大本家にあたることになります。そして、

鹿島神宮はその大本家の氏神になるのです。ちなみに藤原氏が奈良で権力を持ち始めたため、自分達の氏神を鹿島神宮から奈良の三笠山に迎え入れたのが春日大社です。

この頃、神社といつても、今のように寺院と明確な区別があつたわけではありません。平安時代、奈良で大仏が建立されていた時、この鹿島でも遊行僧である満願上人まんげんじょうにんが大般若経だいほんにやきょう六百巻と仏画をもつて鹿島神宮に神宮寺(鹿島山金蓮院神宮寺)を建てたという記録があります。つまり、神社の中に寺を建立したのです。これは特別なことではなく、比叡山延暦寺も高野山金剛峯寺も神社の境内の中に建てられました。神社という

神聖な場所の境内に寺を建てるということは、当時としてはごく当たり前のことであつたのかもしれない。親鸞聖人が鹿島神宮を訪れたのは、神宮寺ができてから四五〇年程たつてからです。このころにはかなりの数の仏教経典が揃つていたと思われ、宮司の一族である大中臣氏の人たちが仏教に精通していても、何ら不自然なことはありません。ですから、性信や順信が親鸞聖人の弟子になつても驚くことではないのです。

ただし、明治の廃仏棄釈により、鹿島神宮から仏教の色は一掃され、今では境内奥の神宮寺跡に「親鸞聖人旧跡」と示された木札があり、親鸞聖人が訪れた際小石に経文を書いた「親鸞聖人お経石」が出土したと記しているのみです。

順信を開基とする無量寿寺は、親鸞聖人が稲田から鹿島神宮への往復の途中禅宗の無量寺に立ち寄られ、

## 杉谷浄の

### ラジオ案内

四月五日(火)  
五月三日(火)  
六月七日(火)  
七月五日(火)

FM・N1(七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝六時からです。インターネットでも聞けます。

### 『心の相談室』

毎月第四土曜日  
午後三時～五時  
東別院横

「いちちょう館」二階  
相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きします。



# 和讃に学ぶ

## 第三十四回

常德寺 西山 彰

恒沙塵数の如来は

万行の少善きらいつつ

名号不思議の信心を

ひとしくひとえに

すすめしむ

といえは、「恒沙塵数の如来は」ですから、仏様が嫌っておられるということになります。そして「名号不思議の信心」を勧めておられるのです。

これは皆さんがよくご存知の和讃です。ここに「万行の少善」とありますが、これと似かよった言葉が和讃によく出てきます。「定散

つまり、仏様は「諸善」ではなく「お念仏」を衆生に勧めてくださっているのです。

二善」「万行諸善」「諸善」などがそうですが、およそこれらは同じ意味です。

親鸞聖人は、お念仏ひとつで浄土に生まれることができるのであり、それ以外の功德は必要ないのだとお説きになりました。つまり「諸善」は必要ないのだとお説きになったのです。

これらは、浄土に往生するためには積まれる一切の善根功德のことです。

現代的な言い方をすれば、良いことをしたら良いことが返ってくるという考えから離れなさいと言っておられるのです。

和讃では「万行の少善きらいつつ」とありますから、文字通り、「諸善」を嫌っている」と述べられているわけです。

では誰が嫌っているのか

そういう意味で、ここに

紹介した和讃は浄土真宗の基本的な内容を詠っているといっているでしょう。ところが、このこととは逆のことをおっしゃっているような和讃があります。

諸善万行ことごとく

至心発願せるゆえに

往生浄土の方便の

善とならぬはなかり

けり

言うまでもなく、仏教に関心もない人に浄土に往生したいという気持ちは起りようありません。善いことをして浄土に生まれたいと願うことは、その人にとって重要な契機なのです。先の和讃の「万行の少善きらいつつ」という言葉は、そのような人にこそ響くものなのです。

違います。諸善が本義ではないと教えられていても、諸善を越えられない壁が我々にはあるのです。しかしその壁を感じることもできるからこそ、その向こう側にあるものを強く認識できることも確かです。煩惱具足の凡夫であることを忘れなければ、諸善に迷うことを恐れることはないのだと思います。



## 真宗豆知識

## 得度の年齢

得度とは、僧侶になることを意味します。

大谷派では得度は九歳からできることに決まっています。これは宗祖親鸞聖人が九歳で得度をされたことに由来します。『親鸞伝絵』によると、「興法利生」すなわち仏法を興隆し衆生に利益をもたらすため、九歳の春に剃髪したとあります。

ちなみに、親鸞の師法然上人は十五歳、親鸞の曾孫で『伝絵』の著者覚如上人は十七歳、日蓮上人は十六歳で出家しておられます。

これらの高僧たちから比べても、親鸞聖人の九歳での出家は早すぎるといえます。

だいたい九歳というと現代では小学校四年生です。そんな子供が「興法利生」というような高い理想を掲

げて出家を決意するとは到底思えません。

またこのとき親鸞を筆頭に日野有範の男子五人が全員出家して僧侶となつています。このような例はほかにありません。このことと早すぎる九歳の得度ということは、今でもその理由がはつきりしていません。

ただ諸説ある中で、父有範にその原因があるとする説が有力です。

日野有範は若くして官界から身を引いて隠棲しています。当時何らかの

不祥事を起こしたのではないかといわれています。

所領を召し上げられ、生活に困窮した結果子供たちを出家させなければならなかったというわけですから、そういわれると味も素つ気もない話ですが、そのあたりが事実なのかもしれません。

昨年の夏、長男が本願寺で得度をいたしました。九歳ではなく、一年遅れの十歳でしたが、早過ぎるかどうかは皆さんのご判断に任せます。

(彰)



## 常德寺改修工事、 今春開始決定

本堂屋根修復事業を立ち上げて、早九年が過ぎました。ご門徒の皆さんの多大なるご支援により、今年五月より改修工事に取り掛かれることとなりました。工事は約三十年前にこの寺を建設に携わった西松建設が行います。

昨年より建物の調査を繰り返し、時間を十分にかけて改修案を練り上げてきました。その結果以下の改修を行うこととしました。

- ① 外壁ひび割れ修繕
- ② 銅版屋根部分補修
- ③ エレベーター設置。

それに伴う消雪用自動センサー取り付け、客室の改修。

詳細は別にプリントをお配りします。また完成は七月末ごろを予定しています。

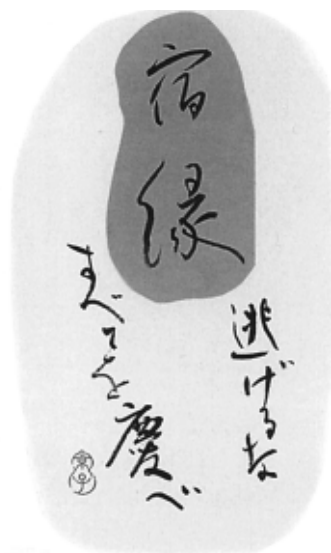
本の紹介

ほつとする

親鸞聖人のことば

文川村 妙慶  
書高橋 白鷗

二玄社  
一〇〇〇円＋税



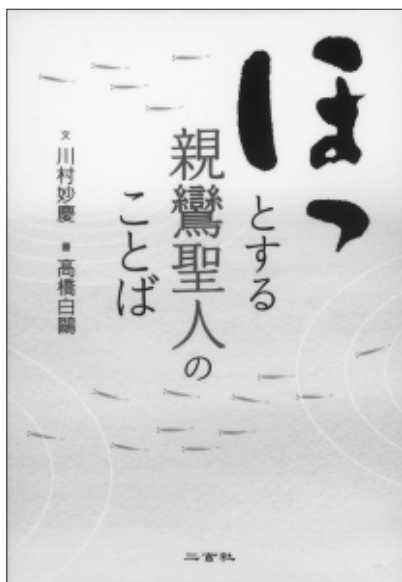
ます。

例えば、「遠く宿縁を慶べ」という親鸞聖人の言葉には「逃げるな！すべてを慶べ」と川村さんの言葉が

ます。御存じの方もおられるかも知れません。この本は、川村さんが浄土真宗の法語についてのエッセイを書かれ、書道家の高橋さんが素敵な書を添えるという形で、とても読みやすく構成されています。川村さんの文章も、決して仏教用語の説明になることなく、生活の中で感じられる教えとして書かれていて、とても好感が持てます。法語ごとに添えられた川村さんの言葉も簡潔で要を得ている。

著者の川村さんは、私達と同じ真宗大谷派の僧侶であると同時に、アナウンサーとしても活躍なさっている方です。新聞の悩み相談コーナーや、ラジオ番組を担当なさっている他、全国の寺院はもちろん、喫茶店や列車の中でも法話会をしています。最近ではテレビにも出ていらつしゃるので

添えられています。そして1ページ程のエッセイの中で「どんな状況でも受け入れるには勇気がいります。その勇気をいただくのが、仏法に出会うということなのです。」と述べられ、右にあるような高橋さんの書が書かれているのです。すべてが見開きの中に納まっている短い文と書の構成にもすらすらと読むことができます。この「ほつとするシリーズ」はこの他に、論語、禅語、孔子、般若心経なども出ています。関心のある方は是非ご一読ください。



この「ほつとするシリーズ」はこの他に、論語、禅語、孔子、般若心経なども出ています。関心のある方は是非ご一読ください。

要を得ている。この「ほつとするシリーズ」はこの他に、論語、禅語、孔子、般若心経なども出ています。関心のある方は是非ご一読ください。

各寺のご案内

◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

〒二四一—二六四九

正午より

御齋

手打ちそば 更科藤井

午後一時より

フルート演奏

田代真佐子氏

午後二時より

講演

向井哲郎氏(精神科医)

◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二—四

〒二四一—五二一九

編集後記

三月十一日、理髪店で髪を切ってもらいながら、津波に吞まれていく家や車を見ていました。まるで映画の場面のように見え思える生の映像は、まさしく多くの命が失われていく瞬間でした。亡くなった多くの方々のためにも、残された者に与えられた課題に取り組んでいかなければならない日々が始まっています。(浄)

◎お講(石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師

四月 佐藤 哲

五月 杉谷 浄

六月 松林 忠雄

七月 杉谷 浄

◎報恩講

五月二十二日(日)

午前九時半より

正信偈のお勤め

午前十時より

法話

中本昌年氏

(富山大名誉教授)

編集委員

西山 彰(常徳寺)

杉谷 浄(徳法寺)